

皆さん、こんにちは！いかがお過ごしですか？

津谷歯科医院、院長の津谷良です。

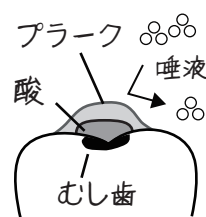
『微生物により歯の組織が局所的に破壊されていく病理過程』を齶蝕(うしよく)と言います。ちょっと難しいですよ。しかしミュータンス菌によって歯が溶ける病気と聞けば、むし歯のことだとすぐわかります。むし歯は甘い物とミュータンス菌が原因であることは一般的ですが、具体的にどのようなメカニズムでむし歯になるのかを知っている方は少ないかと思えます。最新の研究ではむし歯を作る過程が詳しくわかってきました。むし歯は自然治癒することがないので、むし歯にならないようにすることが重要です。なぜむし歯ができるのか？その具体的な理由を知ることによって、予防に繋げることも可能です。そこで今回は、『むし歯発生、最新のメカニズム』についてご紹介したいと思います。

■ むし歯は感染症

生まれたばかりの赤ちゃんの口の中にミュータンス菌は存在しません。しかし同じ食器の使用や口移しにより、日常的に保護者の唾液を介してミュータンス菌が感染します。もし口腔内の細菌バランスが決定する3歳頃までに感染しなければ、むし歯になりにくいことがわかっています。

■ グルカンによって口の中に定着 !!

ミュータンス菌には他の細菌にないグルカンという粘着性の物質を作り出す能力を持っています。実はこのグルカンが歯の表面に付着することで菌は口の中に定着できるようになります。さらに他の細菌も絡めて塊となり、プラーク(歯垢)を形成します。プラークは唾液中の殺菌成分から中の細菌を守るバリアの働きをすると同時に細菌の代謝で生じた



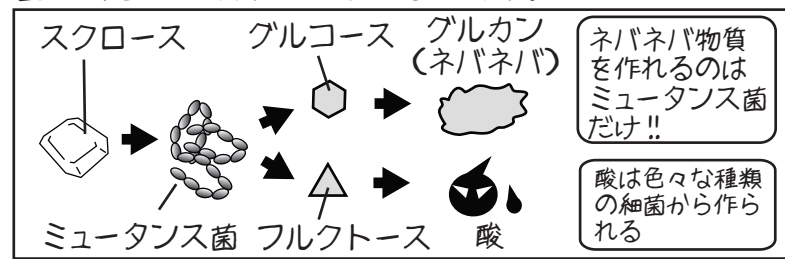
1. 唾液がプラークの中まで入り込めないため酸を中和できない
2. 酸と接する部分の酸の濃度が下がり歯が溶ける

酸を内部に閉じ込めます。通常、酸は唾液で中和されるため

歯は健康な状態を維持できるのですが、プラーク内に閉じ込められた酸は中和されず濃度が高くなり、歯が溶けだす『脱灰』という現象が進み、むし歯となります。

■ むし歯発生の重要な鍵 スクロース(砂糖)

もう一つむし歯の進行に欠かせないものがスクロース(砂糖)です。ミュータンス菌は糖類の中でもとりわけこのスクロースを好み、酵素GTFを使ってスクロースをグルコースとフルクトースに分解し、そのグルコースを鎖状につなげてプラークの基礎となるグルカンを作ります。またフルクトースはミュータンス菌や他の細菌の餌となり酸が生成されるのです。



このように、むし歯予防にはプラークと糖類のコントロールがとても重要になります。次号では糖類について詳しく触れたいと思います。

◆むし歯になる仕組みを理解して、予防とお口の健康管理に役立てましょう!!◆

口腔ケア新聞の発行にあたって



ここ数年、外来患者さんやそのご家族から訪問診療のお問い合わせやご依頼を受けるケースがとて増えてきました。小さなご病気されてしまったことがキッカケで、寝たきりになってしまわれたりして、『いつもお元気でいいですね』って話をしていたのに。。。そんなことが続いたので、これは本格的に訪問診療に取り組まなければいけないかなって、強く思うようになりました。

そこで取り組みの一環として、要介護者の歯と口に関する情報を地域の介護に携わっている方にお届けしようと考え、口腔ケア新聞を毎月1回発行しています。

津谷歯科医院

診療時間 9:00~12:30/14:00~18:30
(土曜日は16:30まで)

診療科目 歯科 小児歯科

休診日 木曜・日曜・祝祭日

院長 津谷良

岡山市中区海吉1807-14

☎ 0120-779-418 FAX 0120-779-413